

スポーツや外遊びに不可欠な要素（時間、空間、仲間）の減少

1) スポーツや外遊びの時間の減少

NHK 放送文化研究所が行っている「国民生活時間調査」によると、中学生と高校生のスポーツをする時間を見ると、昭和50年から平成12年までの25年間で、中学生は減少、高校生はほぼ横ばいとなっている。また、内閣府で行っている「青少年の生活と意識に関する基本調査」により、小中学生の休日の過ごし方を見ると、平成7年から5年間、テレビを見たり、テレビゲームをするなど、室内で過ごすことが増加しており、外遊びは減少している。このように、外遊びなど体を動かす時間が減少し、学校外の学習活動や室内遊びの時間にとって代わられていると考えられる。

2) スポーツや外遊びの空間の減少

都市化や自動車の普及は、子どもたちの手軽なスポーツや外遊びの場であった空き地や生活道路を奪った。都市公園や学校開放、公共のスポーツ施設は増加しているものの、子どもたちが自由に遊べないなどの問題がある。ユニホームを着て組織的にスポーツをするための場所は整備されてきているが、普段着で好きなときに来て、少人数で遊んだり、スポーツすることができる身近な場所は減少している。

3) スポーツや外遊びの仲間の減少

少子化が進み、兄弟姉妹の数が減って、スポーツや外遊びの仲間となる身近にいる子どもが減少した。また、学校外の学習活動などで子どもが忙しく、平日の放課後に遊びたくても、自由な時間が取れなかったり、友達と時間が合わないことで仲間が作りにくい。仲間が少ないので群れることがなくなり、自分たちで外遊びを考え出すことが難しくなり、テレビゲームなどの室内遊びをすることが多くなる。このように、仲間の減少がスポーツや外遊びをできにくくする要因となっている。

資料

1の② 習い事をしている子は5割を超えている

(単位：%)

習い事をしている	56.6
習い事をしていない	43.4

1の③ 遊び場所で気にかかること（複数回答）

(単位：%)

	総数に対する割合
総数	100.0
遊び場やその周辺に危険なところがある (こわれた遊具、川、道、工事現場など)	27.6
大人の目が届きにくい場所がある	19.3
ボール遊びができるような場所がない	24.7
雨の日に(家以外で)遊べる場所がない	51.0
遊び場所が近くにない	21.1

1の④ 友だちとの関係で気にかかること（複数回答）

(単位：%)

	総数に対する割合
総数	100.0
近所に友だちがいない	34.4
友だちと遊べない	3.1
友だちと遊びたがらない	2.6
友だちをいじめることがある	3.1
友だちにいじめられることがある	6.9

調査の対象：全国の2001年1月10日から17日の間及び7月10日から17日の間に出生した子を対象とし、厚生労働省が人口動態調査の出生票を基に調査客体を抽出した。

調査の時期：1月生まれは平成18年8月1日、7月生まれは平成19年2月1日（対象児の年齢 5歳6か月）

出典：厚生労働省 第6回21世紀出生児縦断調査結果の概況より

資料

2の① 新聞を使って遊んでみよう



出典：文部科学省 幼児期運動指針普及用パンフレットより

2の② 運動が好きな子を育む言葉かけや対応について

「ほめるとき、どんな言葉を使っていますか？」

- 1位 40.8% 「素晴らしい（すごい!）」
- 2位 24.9% 「いいね!」
- 3位 21.5% 「〇〇さん（氏名）すごいね〜!」

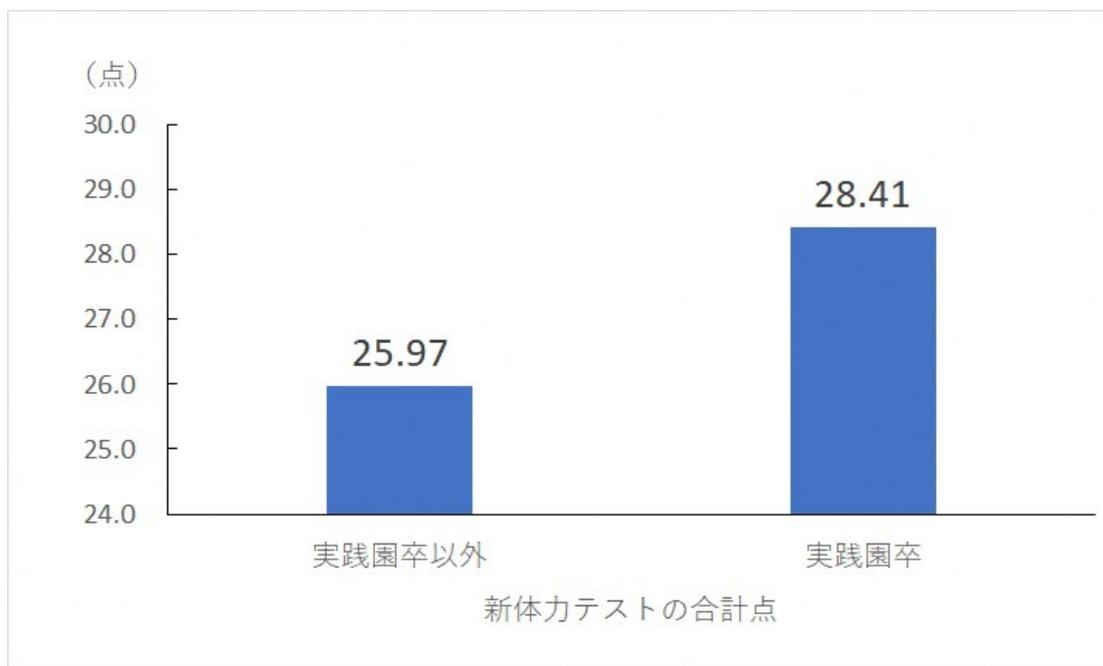
その他の回答

○「ナイス!」 「さすが!」 「天才!」

出典：公益財団法人 日本レクリエーション協会 運動が好きな子を育む言葉かけや対応のヒント集 2016年3月18日発行 より

文部科学省の調査では、体力の向上への基礎づくりを行った実践園と行わなかった協力園を卒園した児童を追跡し、卒業後（小学校1年生）の運動の頻度や運動部の活動・スポーツクラブへの加入率及び新体力テストの結果を調べた結果、**幼児期によく体を動かして遊ぶ経験をした子供は、その後も活動的な傾向にあることがわかった。**

子供の体力・運動能力は、活発に体を動かして遊ぶ習慣や規則正しい生活習慣の影響が積み重ねられて徐々に向上する。生涯にわたる心身の健康づくりの視点からも、**まずは幼児が体を動かす楽しさに触れ、その継続による運動習慣づくりに努めることが大切である。**



出典：文部科学省 幼少期の多様な運動経験 分析結果より